TSUNAGU

［繋ぐ］

Vol. 46
2021 SPRING

愛でる Special Issue:

紙の彫刻が創り出す神秘的な光の陰影

拓く 海洋プラスチックごみ削減に向けて
今、KPPができること

先どる 廃棄予定の野菜や果物からつくる
ペーパーアイテム「Food Paper」

愛でる 紙を愛する匠たち
「KAMI-WAZA 紙ワザ」

紙の彫刻が創り出す 神秘的な光の陰影

切り絵を施した何枚もの紙を層状に重ねた彫刻のような作品。
光を照らすことで生まれる独特のニュアンスのある陰影は、
遠い国の神話のような幻想的な美しさを宿しています。
一般的な切り絵のイメージを覆すこれらの作品は、
切り絵アーティスト、柴田あゆみさんによるもの。
世界中にファンを持つ彼女へのインタビューを通して、
作品に込められたメッセージとその世界観に迫ります。

TSUNAGU

TSUNAGU 2021 Spring

国際紙パルプ商事(KPP)が発行するTSUNAGU
(繋ぐ)は"紙の魅力再発見"をテーマに、
紙と文化・紙と事業・紙と人を「繋ぐ」広報誌です。

愛でる …… P01
紙の彫刻が創り出す
神秘的な光の陰影

PAPER TOPICS …… P06
"紙"と"植物由来樹脂"を複合した
新素材「PAPLUS®」に注目

先どる …… P07
廃棄予定の野菜や果物からつくる
ペーパーアイテム「Food Paper」

伝える …… P09
文壇の重鎮作家が送った
真情あふれる老成した手紙

拓く …… P11
海洋プラスチックごみ削減に向けて
いま、KPPができること

深める …… P13
KPPグループの最新ニュースを
キャッチアップ

訪ねる …… P15
新たなコミュニケーションを生み出す
注目のブックカフェにフォーカス

作る …… 付録
ふわふわと揺れながら飛ぶ
「こいのぼり紙飛行機」

柴田 あゆみ Ayumi Shibata

切り絵アーティスト

神奈川県横浜市生まれ。2007年に渡米。2012年、ニューヨークにあるナショナル・アカデミー・オブ・デザインに入学し、版画とマルチメディアを専攻。2015年から仏・パリに拠点を移し、パリ市運営のアトリエ59リボリにて2年間の展示と制作活動に取り組む。精巧な切り絵と光が織りなす幻想的な作品は各国で高い評価を受け、ミラノ・マルペンサ空港（イタリア）での大型作品の展示や、ドイツ国際アートトリエンナーレでの入賞など、国際的なアートシーンで注目を浴びる。国内では、2020年に銀座和光、富士川・切り絵の森美術館などで個展を開催。同年12月には歌手・森山良子さんのコンサートツアーの舞台美術を担当するなど、活躍のフィールドを広げ続けている。

WEB:https://www.ayumishibata.com

これから「自然」と「人間」は
どのように共存していくべきなのかを
作品を通して表現したい。

一枚の紙をカッターナイフで切り抜くことで生まれる繊細な模様。人の手によって生み出される切り絵は、作り手の豊かな感性と高度な技術、紙の質感と明暗のコントラストを掛け合わせることで独自の世界観を表現するペーパーアートです。数多くの優れた切り絵作家のなかで、ひと際異彩を放つ存在として注目されているのが、柴田あゆみさんです。彼女がつくる美しい作品のルーツを知るために、冬の冷たい空気が和らぎはじめた3月、都内にある柴田さんのアトリエを訪ねました。

柴田さんが生み出す作品の特徴のひとつは、平面ではなく立体的であること。一枚の切り絵を単独で見せるのではなく、精巧に彫刻した切り絵を何層にも重ねることで、奥行きのある複雑な表情をもたらします。そこに描かれる木々などの植物や動物、人々が暮らす家や教会などの街並みは光に照らされることで生命力を宿し、神秘性を纏った美しい陰影が独自の世界観を表現しています。

「切り絵を収納するガラスの容器を眺めていると、自然と3Dの世界が浮かび上がってくるんです。そのイメージをもとに切り進めていくので、下書きはせず、フリーハンドで作品をつくっています」。実際に制作の様子を間近で見せてもらうと、真っ白い紙にカッターナイフを立て、迷うことなく切り進めていく様子が窺えます。「作品にはそのときの自分がすべて投影されるので、邪念がないクリアな状態にしておくこと。意図的にデザインするのではなく、私の手から紙に生命を吹き込むことを意識して、作品づくりをしています」。

作品に使用する紙にも、柴田さんならではのこだわりが詰まっています。「ガラスに入れる作品は、イタリア製のペルガモンという紙を使っています。耐久性と耐湿性に優れていて、光を透過すると少し羊皮紙（ようひし）っぽいテクスチャーになるので気に入っています。そのほかにも展示用の作品には防火性の高いドロップペーパーというフランス製の紙。山梨の美術館で展示した等身大のインスタレーション※作品には、地元の西嶋和紙を使ったこともありました。紙は自由自在に変形できるし種類も豊富。アメリカにいた頃はよく専門店を何軒もまわって自分が好きだと思える紙を選んでいました。紙は、その国、地域でしか流通していないものなど、探せば探すほど新たな発見があるから面白いですね」。

その独創的な作品が海外メディアでも取り上げられるなど国内外のアートシーンから注目を集める柴田さんですが、これまでに歩んできた道のりにはさまざまな紆余曲折がありました。高校卒業から25才まではアートではなく音楽活動に傾注。情熱を持って取り組んだもののいつしか利益を優先する創作活動に疑問を抱くようになり、交通事故に遭ったことを機にミュージシャンとしての活動を引退したそうです。その後、決して揺らぐことのない表現者としての"芯"を構築するために、米・ニューヨークに留学することを決意しました。「現地では、言葉の壁からふさぎ込んでばか

※インスタレーション・アートの略称。展示空間を含めて全体をひとつの作品として表現した芸術作品やその手法のこと。

①銀座和光本店での個展で披露された作品「調和の森」②「In the Jar」シリーズより「In the Jar しげみ」③「ぎんがのおと」④ミラノ・マルペンサ空港ターミナルで展示された巨大な切り絵作品「天の岩戸開き」 ⑤パリで開催した個展の展示風景より「しらかば」⑥「わたしの翼」⑦「鼓動・六」⑧「星の記憶」⑨「かみのやま」

森山良子さんのコンサートツアーに使用された舞台美術

りいて、よく教会に通っていました。そこには街の喧噪から閉ざされた静寂と安らぎがあって自分を見つめ直す時間を過ごすには最適な場所でした。そんなある日、ふと教会の窓を見上げるとステンドグラスから美しい光が差し込んでいて。床に投影された美しい文様を見たとき、はっとするようなインスピレーションを受けたんです。小学生の頃、黒い画用紙とカラフルなセロファン紙でステンドグラス風の飾りをつくったときの楽しい記憶と完成したときの心が満たされるような感覚を思い出して、早速自宅に帰っていくつもの作品をつくりました」。柴田さんがその日に教会で目にした美しい光景が、透過する光を生かした作品の原型になったのです。

柴田さんの作品は、友人の紹介もあって現地のギャラリーで展示してもらえることに。その作品に対する評価は、感度の高い人々との縁によって数珠つなぎで広がり、アーティストとしての実績を着実に積むことになります。「それからしばらくして、現代アートを幅広く学ぶために現地のアートスクールに入学しました。そこでは"好きなことを極めなさい"と言ってくれた学長のサポートもあって、切り絵の創作に没頭。奨学金を受けることもでき、夢中で作品づくりに打ち込みました」。アートスクール卒業後は、自分の直感を信じてパリへ移住。そこでも運命に導かれるような出会いが重なり、切り絵アーティストとしての地位を確立していきました。「少しでもタイミングがずれていたら出会うことのなかった人々との不思議な縁がありました。日本に帰国してからも、私が出演した約3分間のテレビ番組をたまたま観てくれた（歌手の）森山良子さんから、コンサートの舞台美術のオファーをいただくなど、たくさんの"つながり"によって私自身が生かされていると感じています」。

柴田さんが作品を通して伝えるのは、生命の"つながり"。そして人間と自然が共存することの大切さです。「雨が降らなければ作物は育たないし、その雨が汚染されていたら人間の身体にも影響を及ぼします。すべてが水面下でつながっていることを意識せずに人間が身勝手な開発を繰り返してきた結果、自然と人間の関係に歪みが生じてしまった。そのことが新たなウイルス発生の根底にあるんじゃないかと思っています。社会の在り方が転換点を迎えている今、人間は高度な技術をつかって持続可能な生き方へ舵を切るべきじゃないかと。私の作品を観てくれた人の何人かでも、自然とつながって生きることの大切さに気付いてくれたらうれしいですね」。自分自身が自然や周囲の人々とどのような"つながり"を持っているのかを改めて見つめ直すこと、自然との関わり方を今一度考えることが、私たちの未来を変える一歩なのかもしれません。柴田さんの作品には、サステナブルな社会構築に必要とされる重要なヒントが含まれています。

INFORMATION

柴田あゆみさんが個展を開催

柴田さんの最新作を含む多様な作品を集めた個展が開催されます。会場は、表情豊かな自然と最上の眺望を楽しめる「六甲山サイレンスリゾート」。壮大な自然のなか、柴田さんの繊細かつ美しい作品を間近で堪能できる絶好の機会をお見逃しなく。

会期	8月17日（火）～9月5日（日）
会場	六甲山サイレンスリゾート （兵庫県神戸市灘区六甲山町南六甲1034）
観覧料	無料
問合せ	六甲山サイレンスリゾート TEL:078-891-0650

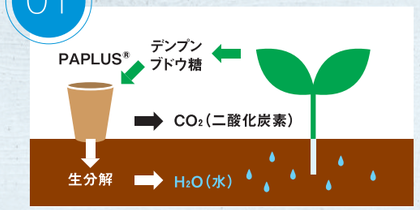
PAPER TOPICS

「紙」と「植物由来樹脂」を複合した、植物成分99%以上の新素材 プラスチックの代替として期待される「PAPLUS®（パプラス）」に注目

紙と植物由来の生分解性樹脂（ポリ乳酸）を複合させた低環境負荷のサステナビリティな素材。株式会社カミーノが開発した「PAPLUS®（パプラス）」は、石油由来プラスチック製品を代替する新素材として、今、大きな期待を寄せられています。ポリ乳酸とは、トウモロコシのデンプンやサトウキビの搾汁と乳酸菌を原料とする生分解性プラスチックの一種。コンポストへ入れた場合は3～6カ月程度で、土に埋めれば数年で二酸化炭素と水に分解される素材として注目されているものの、射出成形が難しいため量産に不向きとされてきました。同社では、この課題に対して各分野の専門家による開発チームを結成。日本の高度な成形・混錬技術によって製品化を実現しました。複合する紙に裁断くずや回収古紙を使用することで、紙の資源循環も可能にする注目の新素材です。

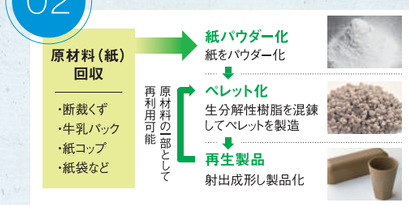
「PAPLUS®（パプラス）」の特長

01 植物成分99%以上



PAPLUS®は、土中の微生物が出す酵素の働きによって水と二酸化炭素に生分解されます。この2つの要素によって植物が成長し、デンプンやブドウ糖を生成されるというループが繰り返されます。

02 紙の資源循環を実現



PAPLUS®は、製造過程で発生する紙の裁断屑や牛乳パック、企業が排出する古紙も原料として使用可能。回収したPAPLUS®も原材料として再利用するなど、資源循環を実現します。

03 耐熱性を付加

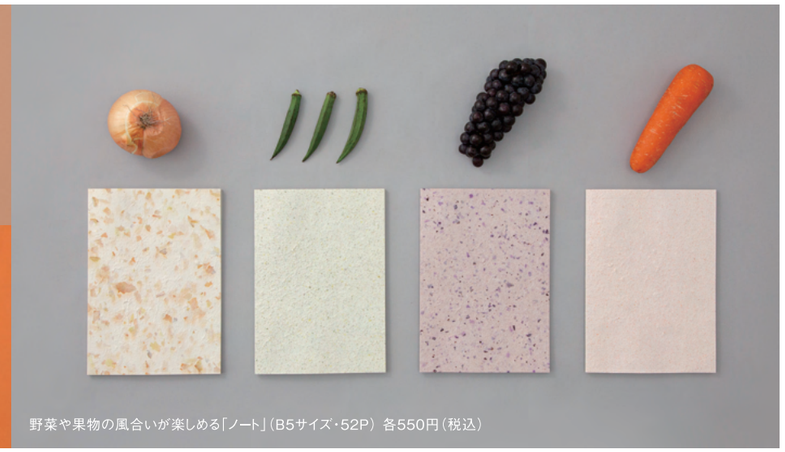
耐熱グレードは約120℃の耐熱性を実現。また、食品衛生法にも準拠しているので、食器容器やテーブルウェア等の用途にも利用できます。※耐熱グレードの植物成分は約90%。天然の粘土と併せ天然成分は96%以上となります。

04 幅広い用途に活用できる

多くのプラスチック製品の代用が期待できるため、タンブラーやテーブルウェア、配膳トレー、化粧品容器などを中心としたプロダクトへの活用、コラボ商品やOEMなどへの展開も予定されています。

問い合わせ　**株式会社 カミーノ**｜東京都港区南青山1-10-4 南青山NKビル7F
TEL:03-6661-3151　URL:https://ca-mi-no.jp/

EDGE of PAPER

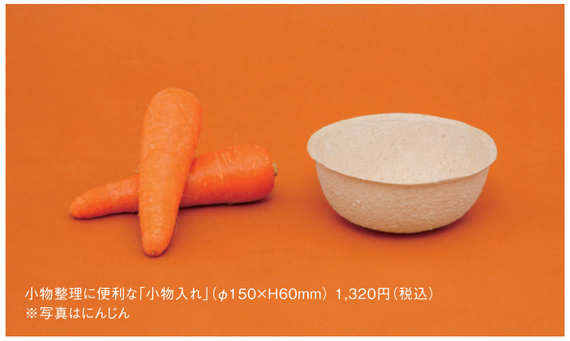


野菜や果物の風合いが楽しめる「ノート」（B5サイズ・52P） 各550円（税込）

旬の野菜や果物を使用した「メッセージカード」（W91×H55mm・12枚入り） 594円（税込）
※写真はぶどう

使い込むと風合いの経年変化が楽しめる「サコッシュ」（W210×H240mm） 3,960円（税込）
※写真はみかん

野菜の収納に最適な「ストッカー」（W2570×H364×D120mm） 1,430円（税込）
※写真はたまねぎ



小物整理に便利な「小物入れ」（φ150×H60mm） 1,320円（税込）
※写真はにんじん

「Food Paper」はオンラインストアで購入できます

デザイン性とストーリー性の高い福井県のプロダクトを集めたオンラインストア「SAVA!STORE」で購入することができます。ぜひ一度お立ち寄りを。

■「Food Paper」特設サイト
https://foodpaper.jp/

■「SAVA!STORE」
https://savastore.jp/

オーダーメイドの紙やコラボ商品にも最適です

その土地で採れたぶどうを使ったオリジナルのワインラベルや、メニューにある食材を使った包装紙づくりなど、「Food Paper」は野菜や果物を使ったオーダーメイドの紙づくりやコラボ商品にも最適です。

廃棄予定の野菜や果物からつくる食物由来のペーパーアイテム

ノートやメッセージカード、小物入れなど、温かみのある風合いを感じさせるやさしい彩りのペーパーアイテム。これらは廃棄されるはずだった野菜や果物の皮と、楮（こうぞ）や麻を混ぜて漉き込んだ和紙でつくられています。この新しいアップサイクル・プロダクト※を考案したのは、越前和紙の老舗、五十嵐製紙の和紙職人・五十嵐匡美さんと次男の優翔（ゆうと）さん。匡美さんが和紙の新しい可能性を模索していたとき、優翔さんが小学4年生から続けてきた「食べ物から紙をつくる」自由研究の試作品ファイルを見て商品化を決意。鯖江市のデザイナー新山直広さん（TSUGI代表）とタッグを組み、本格的な商品開発がスタートしました。和紙一家に生まれた優翔さんの柔軟な発想と匡美さんの高度な手漉き和紙の技術から生まれた「Food Paper」は、世界的な課題であるフードロス削減だけでなく、楮や三椏（みつまた）、雁皮（がんぴ）といった和紙の原料不足解消の糸口になるものとして大きな期待が寄せられています。今回、商品化にいたるまでの経緯など、五十嵐匡美さんにお話をお伺いしました。

※不要になったものに新しいアイデアを加えることで、より価値の高いものに生まれ変わらせるサステナブルな考え方。

株式会社 五十嵐製紙
五十嵐 匡美さん（右）・優翔さん（左）

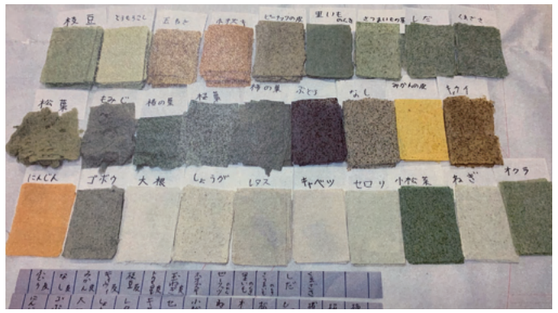
かぶしきがいしゃ いがらしせいし〇越前和紙の故郷、福井県越前市五箇地区にある、大正8年創業の老舗和紙工房。伝統工芸士による最大10メートルを超える手漉き大判和紙をはじめ、和紙をガラスに挟み込んだ「和紙ガラス」や、安らぎの空間を演出する「和紙あかり」、「和紙時計」や「和紙ハンガー」、楮の繊維で編み上げたバスケットなど、オリジナル商品の開発・製造・販売も手掛ける。
〇住所：福井県越前市岩本町12-14
HP：http://www.wagamiya.com/index.html

――「Food Paper」開発の経緯を教えてください。

2019年に参加した福井県のブランディングセミナーでプレゼンすることになり、デザイナーの新山さんと新しい和紙製品を考えていたとき、次男が小学4年生から続けてきた理科の自由研究が頭に浮かびました。それは、身近な食物から和紙をつくる研究なんですが、さまざまな食物で漉いた実際の和紙や顕微鏡写真、特徴などがファイリングしてあって、それをヒントに野菜や果物を漉き込んだ和紙をつくることにしました。そのプレゼンではMVP賞をいただき、中川政七商店さんが運営する「大日本市」でも人気投票で2位になるなど、高い評価をいただくことができました。

――使用する野菜や果物は、どのような基準で選んでいますか？

福井県内の病院や学校給食用のカット野菜を製造している工場、さらには果樹園で廃棄されるもの、スーパーで売り物にならなかったものをいただいて使用しています。また、野菜や果物には「旬」があることを知ってほしいとの思いから、季節に合ったものをまんべんなくセレクトするようにしています。現在、一般向けに販売しているものには9種類、OEMではその倍以上の野菜と果物を使用しています。



この春から高校生になった次男の優翔さんが、小学4年生からはじめた食物を漉き込んだ和紙のサンプル。

――フードロス削減にもつながる商品ですね。

私自身、工場から毎日何百キロもの野菜が廃棄されていることや、少しの傷や変色があるだけでもスーパーの売り場から野菜や果物がはじかれている現状を知りませんでした。この「Food Paper」をつくるようになってからは、すぐに食べる予定のものはなるべく賞味期限が近いものを選んで購入するようになりましたし、私たちの商品を通じてフードロスが身近な問題であることをたくさんの人に知ってほしいと思っています。

――野菜や果物を漉き込むうえで、どのような難しさがありますか？

楮や三椏などの樹皮の内側にある靭皮（じんぴ）繊維は長さがあるので和紙に適していますが、野菜や果物の繊維は極端に短いものや長いものなどさまざまです。また、デンプンが多いものやその食材だけでとても粘り気があるものなどもあるので、それぞれの特性を見極めて分量を決めていく難しさがありました。次男の研究ファイルを教科書にして、ようやく製品にできるようになりました。

――「Food Paper」の特徴を教えてください。

和紙の持つ独特な風合いを残しつつも、人工染料では再現できない、その食物ならではの自然な色合いを表現した和紙です。やはり生きている物を混ぜ込んでいるので、植物が枯れていくように徐々に退色していきますが、それ自体も時間の流れとともに色の変化を楽しんでいただきたいと思っています。耐久性の面でも、靭皮繊維を使った和紙ほどではないものの、楮や麻を混ぜ込むことで十分な強度を出しています。

――今後の抱負を教えてください。

コロナ禍の影響で展示会への出展が中止になりましたが、まだまだ楽しい紙文具の開発を企画していきますのでご期待ください。また先が見えないときだからこそ「Food Paper」をきっかけに持続可能な社会づくりに興味を持つ人が増え、少しでもフードロスが減ってくれたらうれしいですね。

「手紙」は語る

人間は表現する動物だというが、
手紙は人間の表現のなかでもっとも深く高貴なものだと思う。
手紙は手書きがいい。眼光紙背に徹すれば、書き手の人となりが見えてくる。

第二十四回　小島政二郎

植村鞆音

初めて小島政二郎さんに会ったのはいまから六十年以上まえ、わたしの大学時代、あるいは大学受験に失敗して浪人をしていた時代のことである。講演のため新潟を来訪された小島さんの宿舎「小甚」に父が連れていってくれた。小島さんは当時文壇の大御所で、そう簡単に会える人ではなかったが、彼に会わせておけば不肖の息子の将来にいくばくかの余禄があると期待したのか、父は、小島さんに限らずこまめに機会をとらえて知人を紹介してくれた。「邂逅は人生の重大事（亀井勝一郎）」というが、振り返ってみると、こうやって紹介してもらった方たちと後にどこかでまた繋がるのが縁というものなのだろう。

お目にかかったのが十八歳の頃だったとすれば、昭和三十年前後、小島さんは還暦を過ぎておられたと思う。芥川龍之介や菊池寛などとほぼ同世代の作家なので、彼らが存命なら同じ年恰好だったはずだ。芥川や菊池を描いた『眼中の人』は小島さんの代表作の一つだが、わたしは読んでいなかった。戦後間もなく創刊されて人気を呼んだ関西発の食の小雑誌『あまカラ』に長いこと連載されて食随筆のはしりとなった『食いしん坊』は、わたしも何回か読んだ記憶がある。小島さんに関する予備知識はそれくらいしか持ち合わせていなかった。小島さんと父のやりとりにあまり口をはさまずただぼんやり聞いているだけだった。

それから十四、五年を経た昭和四十四年、わたしは仕事のうえで初めて小島さんと関わりをもった。著名人の半生を紹介する「人に歴史あり」というテレビ番組で作家の佐多稲子さんをとりあげることになり、わたしは生まれて初めてディレクターを担当したのだが、その番組でサブゲストとして小島さんに出演していただいた。

佐多稲子さんについてはまた語る機会があるかもしれないが、彼女は左翼系の作家で、長崎から上京して間もなく働いていた上野の「清凌亭」という料理屋で芥川龍之介と知り合い、それがきっかけになって小説を書き始めたという。彼女の人生を語るには芥川との出会いが欠かせない。そこで芥川を直接知り彼に関する著作もある小島さんにゲスト出演してもらい、その辺の事情を聞くことになったわけである。たしか、小島さんは番組の中で、「面長でほっそりとした肩が印象的だった。芥川も久米（正雄）も彼女に惚れていた」と語っていた。初めての演出にも拘わらず収録はまあうまく終わったし、佐多さんの気配りで収録後六本木の中華料理店で番組関係者一同ご馳走にあずかった。小島さんも当時の奥さん、視英子さんとご一緒で上機嫌だった。

古い手紙の入ったわが家の段ボールの中から小島さんからの四通の手紙が出てきた。二通が父清二宛、二通がわたし宛である。父宛の二通は葉書で宛先の住所が逗子になっている。父が一緒に暮らす二女の結婚が決まったのを潮に長い間暮らした新潟を引き払い約一年間逗子でわたしと仮住まいしたことがあるが、その頃頂戴した葉書のようだ。「大地震にも御無事で何よりでした。こんな近間にお引っ越しとは意外でした」とある。「大地震」というのは昭和三十九年の新潟地震のこと。当時小島さんは鎌倉住まいだったが、父が転居を知らせたその返信のようだ。父宛の二通目の手紙には、わたしのことも記されている。

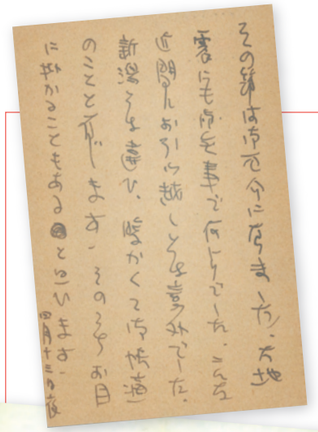
「御令息と電話にてお話をいたし、なつかしく新潟の時のことを思ひ出しました。（中略）インドへいらしって、いろいろ面白い思ひをなさいましたそうで、近頃の私の不精さ加減とくらべて、羨ましく思ひました。頼まれて、大阪へ行くのさへ私は物憂く気が進みません。その上、前立腺肥大といふ老人病に悩まされ、意気地がありません。世の中、下手ばかりになり、楽しみもなくなりました。（後略）」。

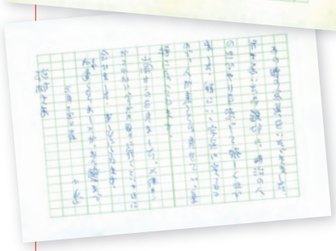
「人に歴史あり　佐多稲子」の収録と放送は昭和四十四年の年明けだったので、小島さんは数えてみると七十五歳になられていた。父が七歳年下の六十八歳である。「世の中、下手ばかり」とは、『円朝』『初代中村吉右衛門』などの著作もある小島さんが演芸の質の低落を語ったのかもしれないし、数々の文学賞の選考委員などを務めて文章にうるさい小島さんが、昨今の文学の質の低下を嘆いたのかもしれない。

わたし宛の二通の手紙は、送ったスタジオでのスナップショットに対する礼状である。

「あの時の写真をいただきました。行き届いた御親切に、明治の人の思ひやりを感じて嬉しく思ひました。特にいい写真に写ってゐるので、人が来ると見せて、い、気持ちになってゐます」

手紙には、最後に「どうか気が向いた時、いらっしゃい」と書いてあったので、とくに要件もないのに図々しくご自宅に立ち寄ったこともある。親しくしていただいた永井龍男さんの家が鎌倉雪ノ下にあり小島さんのお宅がその先の荏柄にあった。道順なので先に永井家に挨拶し、「これから小島さんのお宅に伺う」というと、永井さんが、「小島の『万太郎』を読んだかい」といって苦笑される。あとで読んで知ったが、小島さんの『鷗外荷風万太郎』の「久保田万太郎」は、親しく長いつき合いなのに、女性問題、金銭問題、などで必要以上に悪意を感じさせる書き方がされていた。その後いわゆる鎌倉文士たちがこぞって小島さんに距離をおいた理由が分らぬでもない。あれは久保田万太郎とほぼ同じ道を歩んできた小島さんの、世俗的に恵まれた万太郎の後半生に対する嫉妬がなせる業だったのかもしれない。





著者略歴
植村鞆音　エッセイスト
小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映を経てテレビ東京に勤務。同局常務取締役、(株)テレビ東京制作代表取締役社長等を歴任。2005年『直木三十五伝』で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年『歴史の教師植村清二』で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に『夏の岬』『気骨の人 城山三郎』など。

小島政二郎

小説家、随筆家、俳人
1894-1994

1894年、東京府東京市下谷区（現・東京都台東区）生まれ。慶應義塾大学文科卒業。1924年に最初の創作集『含羞（がんしゅう）』を刊行。講釈師の神田伯龍をモデルにした『一枚看板』で認められたのち通俗小説の分野にも手を広げ、『緑の騎士』『人妻椿』などで人気を博した。大正文壇の回想録となる『眼中の人』、旧知の作家について語る『鷗外荷風万太郎』のほか、古典鑑賞、食味随筆でも知られた。享年100歳。

持続可能な社会実現に向けた、KPPグループのあくなき挑戦をご紹介

KPP Sustainable Times

限りある資源やエネルギーを循環・再生させることは、現代社会において極めて重要な課題となっています。当社は経営理念である「循環型社会の実現」に基づき、事業を通してサステナブルな社会づくりに貢献し、企業価値の向上を図っています。

海洋プラスチック汚染問題の解決に向けて今、私たちにできること

世界中で大きな問題となっている海洋プラスチック汚染。このままのペースでいくと2050年には海中の魚の重量をプラスチックの重量が上回るという試算もあります。一度海に流れてしまったプラスチックは回収が困難なことから、流出を防ぐことが重要な課題となっています。

今回はこの問題に対する主要各国の取り組みをレポートするとともに、「KPPグループとしてできること」をご提案したいと思います。

脱プラスチックに向けた国際社会の動向

日本は世界から見るとやや出遅れましたが、昨年の7月にレジ袋有料化がスタートしました。開始直後は多くの人が不便を感じたものの徐々に日常生活に浸透し、多くの人がエコバッグを持ち歩くようになったことから、レジ袋の辞退率は8割に達するまでになりました。

国連環境計画によると、レジ袋消費量削減のために何かしらの規制を設けている国は2018年時点で127か国あり、83か国が無料配布を禁止しています。

EUはプラスチックごみの総量を抑制することを目的に、ストローやカトラリーなど一般的に利用されている使い捨てプラスチック製品の流通を禁止する法案を採択。2019年6月26日に施行され、EU加盟国は2年以内をめどに、本指令に対応した国内法を整備することになっています。また、中国においても2020年1月、中国国家発展改革委員会が「プラスチック汚染対策の一層の強化に関する意見」を発表しました。一部のプラスチック製品の生産等の禁止、代替製品の促進、廃棄物処分強化等について記載されており、2020年末までに使い捨ての食器類および綿棒の生産、販売を禁止するとしています。

このように世界ではレジ袋の禁止や有料化の次の段階として、プラスチック製の使い捨て容器の削減に取り組み始めています。

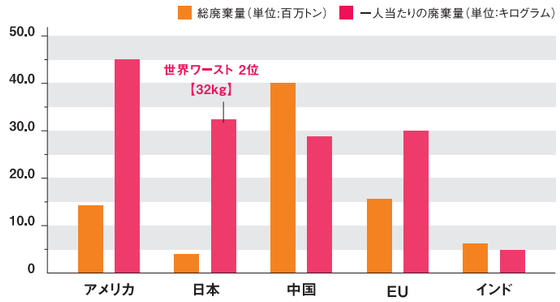
※1…出所:国連環境計画(UNEP) ※2…出所:一般社団法人プラスチック循環利用協会
※3…2020年82万1,000トン(出所:財務省)

一層の加速が求められる日本の脱プラ

日本の一人当たりのプラスチック包装容器の廃棄量は、米国に次いで世界2位※1です。2019年に日本で排出された廃プラスチック850万トンのうち包装・容器などが397万トン※2と最も多く、そのうちレジ袋は20万トン程度と言われています。そのため、今後まだまだプラスチックの使用量を削減する余地があると言えます。

また、日本は国内で出るプラスチックごみのうち80万トン以上※3を輸出してきましたが、今年の1月からは「バーゼル条約」によりリサイクルできない汚れたプラスチックごみの輸出入が原則禁止に。使い捨て容器等の削減は最重要課題のひとつとなっています。

人口一人当たりのプラスチック容器包装廃棄量(2014年)



出典:UNEP"SINGLE-USE PLASTICS"(2019)

KPPからのご提案

プラスチックを減らしていく カギは、「紙」への回帰

ひと口に紙と言っても、その種類や特長は千差万別。うまく使うことによってプラスチックと同様の機能や役割を持たせることも可能です。KPPグループが現在取り組んでいる脱プラスチックに関わる商品・素材の一部をご紹介します。

海洋プラスチック汚染問題解決のための3つのキーワード

紙化

プラスチックや
フィルム素材から紙に替える

歯ブラシのパッケージ

プラスチックの箱から環境に良い素材に替えたいというお客さまからのご要望があり、原料に100%古紙を使用している紙をご提案し採用にいたりました。紙箱では中身が見えないというデメリットもありましたが、ハブラシのイラストを印刷することで課題を解消しています。

右…旧プラスチックパッケージ 左…新紙パッケージ

ペーパーホルダー

脱プラスチックへの取り組みをアピールするのに最適な紙製書類ホルダーです。オリジナル印刷が可能で、両面を大きな広告スペースとして使うこともできます。

バイオプラスチック

生分解性プラスチックや
植物原料由来プラスチックに替える

釣り用品

釣り・アウトドア業界は自然環境と直接かかわることから、環境汚染問題に積極的に取り組んでいます。KPPは釣り具メーカーさま、素材メーカーさまと協働で、バイオプラスチック製の商品の開発に取り組んでいます。

ポリエチレン袋

くず米や砕米といった非食用米を原料に使用した、ライスレジン®素材のポリエチレン袋です。裂けにくく、袋の口が開けやすい特長があります。レジ袋のほかに地域指定ごみ袋などへも採用実績があります。非食用米の活用によってフードロス削減にも貢献しています。

※ライスレジンは株式会社バイオマスレジン南魚沼の登録商標です。

減量プラスチック

製品に使用する
プラスチックの割合を減らす

試着用フェイスカバー

試着時、おもに女性のメイクが洋服につかないように使用するフェイスカバーです。一般的に当製品は不織布素材を用いておりますが、紙素材を用いて環境に配慮した製品を開発いたしました。不織布製品と比較して石油由来素材の割合を約70%削減できる商品です。

プラスチックは、食品の鮮度維持、フードロスの削減に貢献し、医療の現場においては衛生管理の面で欠かせない素材です。しかし、紙をはじめとした環境負荷の少ない素材に代替できる場面もあります。特に一度の使用で役目を終えるワンウェイの用途において、紙という素材はとても有用です。これからもKPPグループは幅広いネットワークを駆使し、環境対応を考えるお客さまのご要望にお応えする商品や素材をご提案していきます。

■ 商品に関するお問い合わせ

国際紙パルプ商事株式会社
管理本部 総務部 広報課
TEL:03-3642-4169 FAX:03-3542-4266
Mail:kpp_pr@kpp-gr.com

鳴海屋紙商事のミニ七夕飾り「浪漫竹（ロマンチック）」が新パッケージにリニューアル

お部屋に飾って楽しめる小さな七夕飾り「浪漫竹（小）」と「浪漫竹ミニ」が新パッケージにリニューアルしました。紙箱の素材には、仙台七夕まつりで使用された紙飾りを回収、それを原料として再成した「仙臺七夕祈織（せんだいたなばたおり）」という紙を使用しています。

この「浪漫竹」は、七夕飾りの職人が本物の素材を使って制作している本格的な工芸品ですので、贈り物に最適です。新型コロナウイルス感染拡大の影響によって移動が困難な今、この浪漫竹で仙台七夕の気分を味わってみてはいかがでしょうか。購入は、鳴海屋紙商事webサイトにある「お問い合わせフォーム」からご注文ください。

製造・販売　KPPグループ　**鳴海屋紙商事株式会社**

【紙・板紙卸売事業】
〒984-0015
宮城県仙台市若林区卸町2丁目14-5
TEL:022-235-2121

【七夕イベント事業】
〒980-0811
宮城県仙台市青葉区一番町3丁目1-16 6階
TEL:022-221-3451

■商品の詳細
www.narumiya-k.co.jp/products/romantic/

■ご注文・お問い合わせ
www.narumiya-k.co.jp/contact/

「タウンecomo」の富山エコ・ステーション認定店舗が拡大

富山県では、民間事業者や団体による常設の古紙回収拠点を「富山県認定エコ・ステーション」として認定しており、「いつでも、どこでもリサイクル」をキーワードに古紙回収を推進しています。当社が展開する古紙回収リサイクルシステム「タウンecomo（エコモ）」は、富山県「エコ・ステーション」の認定を受ける店舗の拡大を推し進め、昨年の36店舗から、現在43店舗まで拡大しております。国際紙パルプ商事では、今後も古紙の回収を通じて循環型社会の構築に貢献してまいります。

富山県認定
エコ・ステーション

タウンecomoとは？

スーパーやドラッグストア等小売店の店頭に設置する古紙回収ボックスです。集められた古紙は再生紙原料として利用されます。買い物客にとってはいつでも古紙を処分でき、小売店にとってはリピート客の獲得というメリットがあります。国際紙パルプ商事はこのシステムを全国に展開しています。

宮城県東松島市の小学校にて「紙漉きイベント」を開催

宮城県東松島市にある宮野森小学校での紙漉き授業を開催しました。これは一般財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団と共同で2016年より毎年開催しているもので、3年生の総合学習の時間に行っています。

宮野森小学校は、東日本大震災で津波の被害を受けた野蒜（のびる）小学校と児童が少なくなった宮戸小学校が統合し、2016年に開校しました。校舎は、故C.W.ニコル氏の強い希望を受け、体育館含めてすべて木造で造られ、学校に隣接する「復興の森」では自然と触れ合い学ぶことができるように設計されています。3年生の児童は、この復興の森で身近な生きものの観察や作業体験など、森の環境について考える授業を年間通して受けています。この紙漉き授業では、自然からの恵み、森の活用について考えるとともに、日本の伝統である和紙についても学ぶことができます。

今年もオランダ出身の和紙工芸作家ロギール・アウテンボーガルト氏が講師を務めました。和紙の原料である楮（こうぞ）、三椏（みつまた）、そして紙漉きの工程についての説明に、児童たちも関心を持って注目しています。

児童たちが体験する和紙づくりは、昨年11月末に復興の森で収穫しておいた楮（こうぞ）と三椏（みつまた）を使用します。繊維を叩いて細かくし、それを水に溶かしてネリを加えてとろみを出し、最後に型に流し込みます。そして復興の森で拾ってきた葉っぱや花などの自然素材を漉き込むことで作業は終了。それぞれが気に入ったものを選んで配置することで、個性が引き立つ素晴らしい作品が出来上がりました。

震災から今年で10年の節目を迎えましたが、当社は今後も被災地への復興支援としてさまざまな取り組みを行ってまいります。

NEW STYLE BOOKSTORE -Vol.2-

カイドー ブックス アンド コーヒー

KAIDO books & coffee

東京都品川区北品川2-3-7 丸屋ビル 1F
TEL 03-6433-0906
10:30〜18:00／火曜定休
※感染症予防対策として、営業時間が予告なく変更される場合があります。
http://kaido.tokyo/

旅の楽しみがふくらむ、「地域本」を集めたブックカフェ。

かつては東海道五十三次の第一宿として栄えた東京・北品川地区。上りの旅人にとっては最初の、下りの旅人には最後の宿場町として多くの人やモノが行き交っていたこのまちで、「旅」をコンセプトにした本とこだわりのコーヒーを楽しめるのが、この「KAIDO books & coffee」です。早速、コーヒーの深みのある芳香が漂うカウンターキッチンを抜けて2階のフロアへ。空間全体を囲むように置かれた本棚には、北海道から沖縄まで、全国各地の歴史や風土、地理や生活文化に関する本が都道府県ごとに並んでいます。これらの本の大半は、古書の収集家・田中義巳さんが全国の街道を歩いて集めたもの。蔵書の総数は5万冊ほどあり、そこからセレクトした約1万2千冊が陳列されています。ここでは本格派のコーヒーやクラフトビール、自家製のホットドッグ（絶品!）を味わいながら、気が向くままに読書を楽しむことができます。

“KAIDO”という店名のとおり、旅をコンセプトにしたブックカフェでありながら、店内にはいわゆる旅行ガイドブックやグルメ本は見当たりません。その理由を店主の佐藤亮太さんにお伺いすると、「観光地だけを見てまわる旅もいいけど、どうせならその土地の歴史や文化を知ったうえで訪れた方がガイドブックにはない新しい発見があるはずだし、現地で知り合った方と話すきっかけが生まれやすいと思っています」。

またKAIDO books & coffeeでは、各地方の魅力を伝えるトークイベントや郷土料理の提供、地域の課題をテーマにしたドキュメンタリー映像の上映といった独自イベントも積極的に開催しています。「旅を豊かなものにするお手伝いになればと思って、旅で知り合った方や地域の仲間と協力しながら企画しています。それに、いろいろな地域のことを知ることで、自分の故郷や住んでいる土地の魅力を見直すきっかけになってくれたらうれしいですね」。旅に出る前の予習として、また旅を振り返る復習をするのにも最適なブックカフェ。ぜひ一度お立ち寄りを。

RICE INK®
輸送マイレージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。

Eco・Press Binder
針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。

国際紙パルプ商事株式会社
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.
発行：管理本部 総務部 広報課
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号
TEL（03）3542-4111（代）
URL https://www.kppc.co.jp

「TSUNAGU」Vol. 46 使用紙：雷鳥マットコートZ（127.9g/㎡・中越パルプ工業株式会社）しなやかな手触りと優れた可読性を持ち、印刷面のグロス感も抜群なマットコート紙です。